

教科名	歯科学統合演習VI b
責任者名	黒川 弘康
学期	後期
対象学年	6学年
授業形式等	演習

◆担当教員

各講座の学習指導委員が担当する。

黒川 弘康 (歯科保存学Ⅰ 准教授)
高橋 富久 (解剖学Ⅰ 教授)
山崎 洋介 (解剖学Ⅱ 准教授)
近藤 真啓 (法医学 専任講師)
藤田 智史 (薬理学 准教授)
津田 啓方 (生化学 准教授)
神尾 宜昌 (細菌学 准教授)
岡田 明子 (口腔診断学 准教授)
松本 邦史 (歯科放射線学 助教)
雨宮 俊彦 (歯科放射線学 助教)
浅野 正岳 (病理学 教授)
尾曲 大輔 (病理学 助教)
篠塚 啓二 (口腔外科学 助教)
白土 博司 (口腔外科学 助教)
関野 麗子 (歯科麻酔学 助教)
米山 隆之 (歯科理工学 教授)
小峰 太 (歯科補綴学Ⅲ 准教授)
大山 哲生 (歯科補綴学Ⅱ 専任講師)
伊藤 智加 (歯科補綴学Ⅰ 専任講師)
浦田 健太郎 (歯科補綴学Ⅰ 助教)
三井 教裕 (衛生学 兼任講師)
上原 任 (医療人間科学 専任講師)
堤 博文 (法医学 専任講師)
佐藤 光保 (摂食機能療法学 助教)
武井 浩樹 (小児歯科学 助教)
稲葉 瑞樹 (歯科矯正学 助教)
鈴木 里奈 (歯科矯正学 兼任講師)
蓮池 聡 (歯科保存学Ⅲ 助教)
羽鳥 啓介 (歯科保存学Ⅱ 助教)
鈴木 直人 (生化学 教授)

◆一般目標 (GIO)

講義、演習と自己学修から、歯科学統合演習VIaで得た学力の一層の向上を図り、歯科医師国家試験の必修、一般問題および臨床実地問題に対応するための応用的な知識を修得する。

◆到達目標 (SBOs)

- ① 歯科基礎医学の知識を応用できる。
- ② 歯科臨床医学の知識を応用できる。

- ③ 社会歯科学の知識を応用できる。
- ④ 臨床実地科目の知識を応用できる。

◆評価方法

統合試験Ⅵbの合格基準を統合試験Ⅵb①～④の総合で得点率が67%以上かつ統合試験Ⅵb④単独の得点率が67%以上とする（成績評価表示とする）。

上記における合格基準の得点率は、小数点以下を切り捨てた値（第1位を四捨五入しない）で判定する。

なお、本演習の受講には、歯科学統合演習Ⅵaの履修完了が必要条件となる。

統合試験Ⅵb①～④の日程および開始時間等に関しては、講堂への掲示をもって5月に伝達する。

再試験および追試験は行わないため、欠席することのないよう日頃から体調管理を心掛けること。また、試験に遅刻しないよう、試験開始10分前には試験場で待機すること。

なお、統合試験Ⅵb①～④は、指定された日時で該当する科目の試験問題について解説を行う。

欠席を認めない。各範囲（統合試験Ⅵb①～④に対応する演習・講義）で欠席が4コマ以上の場合、該当する統合試験Ⅵbの受験を停止する。

1限および4限の演習・講義の出欠確認は、授業開始10分前（8:50あるいは12:50）から、所定用紙への学生自身の記名によって行う。なお、授業開始5分後（9:05あるいは13:05）までは対応するが、これ以降は欠席扱いとする。

2限、3限、5限、6限および7限の演習・講義の出欠確認は、授業開始5分後までに座席表にもとづき行う。この時点で不在の場合、欠席扱いとする。

欠席、公欠、忌引等の場合、登校後速やかに（欠席予定の場合は事前に）教科担当責任者まで欠席届等を提出すること。なお、学習指導委員会で欠席届を確認し、正當かつやむを得ない理由によるものと判断された場合のみ、欠席を解除することがある。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	備考
黒川 弘康	月曜日 17:00～18:00 歯科保存学第I講座 研究室	各講座の学習指導委員が担当する。教員が多数のため、オフィスアワーは教科担当責任者のみ記載してある。必要に応じて各担当教員とアポイントを取り、学修効果の向上に努めること。

◆授業の方法

学習指導委員による講義および講義内容に関連する必修、一般および臨床実地問題（歯科医師国家試験の既出問題およびオリジナル問題）での演習、解説で構成されている。

学習指導委員はスライド等を用いて講義を行う。また、講義内容を補完するためにプリントを配布する。講義および復習を通じてプリントを整備し、知識の習熟を図ること。

必修、一般および臨床実地問題での演習により、講義で得た知識をどのように活用するかを知るとともに、解説を受けることで歯科医師国家試験に対応可能な知識を習得すること。

講義および演習に関する質問は授業時に随時受け付けるが、オフィスアワーも有効活用すること。

授業は関連する科目ごとに配置している（領域別に編成）。各科目の授業内容の繋がりを考え、系統立てて学修すること。

【実務経験】学習指導委員：臨床系科目教員においては、在職している日本大学歯学部附属歯科病院診療科での経験および各講座において担当している授業経験を、基礎系科目教員においては、各講座において担当している授業経験および研究等で得られた知見を踏まえながら、歯科医師国家試験の必修、一般および臨床実地問題に対応可能な知識を習得する場を提供したいと考えている。（歯科学統合演習Ⅵb）

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	指定しない。			
参考書1	平成30年版歯科医師国家試験出題基準（厚生労働省監修）			
参考書2	最新版歯科医師国家試験問題集		指定しない。	2019
プリント配付				

◆DP・CP

DP1

コンピテンス：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

コンピテンシー：医の尊厳を理解し、法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な豊かな教養と歯科学の知識を修得できる。

DP2

コンピテンス：世界の現状を理解し、説明する力

コンピテンシー：国際社会の現状と背景を理解し、地域社会における医療・保健・福祉の役割が説明できる。

DP3

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

DP4

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科学・医療の知識とスキルを修得できる。

DP5

コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな課題の解決策を見出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

CP1

歯科学と医療倫理の基礎的知識を修得し、社会人としての品格と医療人になるための自覚を養成する。

CP2

国内外の医療・保健・福祉の現状を理解し、基礎・臨床・社会医学の知識を基に、国際社会で活躍できる基本的能力を育成する。

CP3

幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

CP4

歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

CP8

各学年における学修で得た歯科医学の知識、技術および省察力をもとに、歯科医師として生涯にわたり学習する姿勢を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

歯科基礎および歯科臨床科目の予習、復習を十分に行うこと。

予習には教科書、参考書、統合演習VIa配布プリントおよび歯科医師国家試験問題集を活用すること。

講義、復習を通じて統合演習VIaで得た基礎的知識をブラッシュアップするとともに、演習により獲得した知識の活用法を習得すること。

◆準備学習時間

授業時間半分相当を充てて予習と復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

歯科基礎医学、歯科臨床医学、社会歯科医学および臨床実地科目。

◆予定表

歯科学統合演習VIb実施の詳細については、配付資料をもって5月に伝達する。

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
			1 ~ 6	歯科基礎医学、歯科臨床医学、社会歯科医学および臨床実地科目 平成31年8月1日～平成32年1月 ※詳細は別途通知 なお、統合試験VIb①～④は、指定された日時で該当する科目の試験問題について解説を行う。これにより、知識の習熟を図ること。	歯科医師国家試験の必修、一般問題および臨床実地問題に対応できる応用的な知識を身に付ける。	学習指導委員	歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）の各科目の内容を参照のこと

閉じる

↑ Topに戻る